

多義語

一 次の の中には多義語が入ります。当てはまるものを、後のア～クから選び、記号で答えなさい。

① 所から下を見下ろす。

この果物は、とても 。

② 相手チームに 。

二百円の品物を、百五十円に 。

③ アイスを食べる。

あの人は、友達に対してとても 。

④ 人物を見かけた。

今日は少し雲行きが 。

⑤ 今日は満月なので、夜なのに 。
彼は、このあたりの地理に 。

ア	イ	ウ	エ
切れる	負ける	冷たい	うまい
オ	カ	キ	ク
高い	明るい	あやしい	赤い

対義語

二 の中に漢字を書き、対義語を作りなさい。

③	②	①
偶然	具体	単純
↑↓	↑↓	↑↓
<input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text"/>	<input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text"/>	<input style="width: 40px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text"/>
然	象	雑

類義語

三 の中に漢字を書き、類義語を作りなさい。

① 手段 ↓ 方

② 簡単 ↓ 容

③ 永久 ↓ 永

漢字チャレンジコーナー

①～④は——線部の読み方を平仮名で、⑤～⑧は——線部の漢字を楷書で書きましよう。

(⑤～⑧は送り仮名が必要な場合もあります。)

① 時間を浪費する。

② 元気よく挨拶する。

③ 思い出の場所を訪れる。

れる

④ 伝統文化の継承。

⑤ 新入生をかんげいする。

⑥ 新聞にのる。

⑦ くわしく説明する。

⑧ 時間におくれる。

熟語の構成

① 次の熟語の構成の説明として当てはまるものを、後のア～オから選び、記号で答えなさい。

① 曲線

② 思考

③ 開会

④ 正誤

ア 二つの漢字が似た意味の関係になっている。
イ 二つの漢字が反対の意味の関係になっている。
ウ 上の漢字が下の漢字を修飾する関係になっている。
エ 下の漢字が上の漢字の目的や対象を表す関係になっている。
オ 上の漢字が主語で下の漢字が述語の関係になっている。

古文―歴史的仮名遣い

② 次の――線部を現代仮名遣いに直し、右横に平仮名で書きなさい。

① いとをかし

② やうやう 白くなりゆく 山ぎは

③ とびいそぐさへ あはれなり

文法―品詞の識別

三 次の――線部の品詞をへ へから選び、記号で答えなさい。

- ① ア 大きな夢をいだく。()
イ わたしの夢はとても大きい。()
へ a 形容詞 b 連体詞へ
- ② ア それはわたしの鉛筆です。()
イ その鉛筆はわたしのです。()
へ a 名詞 b 連体詞へ
- ③ ア またおいください。()
イ 彼は俳優であり、また音楽家でもある。()
へ a 副詞 b 接続詞へ

漢字チャレンジコーナー

①～④は――線部の読み方を平仮名で、⑤～⑧は――線部の漢字を楷書で書きましよう。
⑤～⑧は送り仮名が必要な場合もあります。

- ① 旅の支度をする。
② お寺の境内で遊ぶ。
③ 職人の弟子になる。
④ 類似した品に注意する。
⑤ あわてて家を出た。
⑥ じくがぶれない人。
⑦ 空気がかんそうする。
⑧ 学校にれんらくする。

--	--	--	--	--	--	--	--

敬語

一 次の会話の中には誤った敬語があります。その部分を抜き出し、正しい敬語に直しなさい。

生徒 「明日、家庭訪問で先生が参られるんですけど。」
生徒の親 「あら、そう。いただくかどうかわからないけど、お茶をお出ししないといけないわね。」
生徒 「特に何も出さなくていいと、先生は申されてたよ。家の様子を拝見されるのが目的だから。」

〈誤った敬語〉

〈正しい敬語〉

書写—行書

二 次の行書を、楷書で書きなさい。

〈行書〉

〈楷書〉

③	②	①
録	間	被
↓	↓	↓

文法—用言の活用

一 次の——線部の動詞の活用形を、後のア・イ・ウから選び、記号で答えなさい。

① 書かない

② 起きます

③ 食べれば

ア 未然形
エ 連体形

イ 連用形
オ 仮定形

ウ 終止形
カ 命令形

同音異義語

二 次の文の——線部で使う漢字として正しいものをア・イから選び、記号で答えなさい。

① 国際情勢にかんしんがある。

ア 感心

イ 関心

② あなたの意見をしじします。

ア 支持

イ 指示

③ 絶好のきかいを逃すわけにはいかない。

ア 機会

イ 機械

文法―文の成分

一 次の――線部の修飾語が修飾している文節を抜き出し、に書きなさい。

① 母は、会社に出かけた。

② 彼は、有名な学者だ。

③ わたしは、ゆっくり顔を上げた。

文法―助詞

二 次の――線部の助詞「の」の働きとして当てはまるものを、後のア～ウから選び、記号で答えなさい。

① 子供は社会の宝だ。

② 姉のつくったケーキはおいしい。

③ このノートは僕のだ。

- ア 主語を作る
- イ 連体修飾語を作る
- ウ 体言の代用

文法―助動詞

三 次の――線部の助動詞「れる・られる」の意味として当てはまるものを、後のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ① 先生にほめられる。
 - ② 昔の姿がしのばれる。
 - ③ 賞味期限前なので、まだ食べられる。
-

ア 受け身	イ 可能	ウ 自発
		エ 尊敬

漢字チャレンジコーナー

①～④は――線部の読み方を平仮名で、⑤～⑧は――線部の漢字を楷書で書きましよう。

- ① 恩に報いる。
 - ② 真紅のバラの花。
 - ③ 敵を欺く。
 - ④ 祝宴の席を調える。
 - ⑤ ひとじちを救出する。
 - ⑥ 紅茶のおいしいきつさてん。
 - ⑦ うちの犬はとてもかしこい。
 - ⑧ 疑いを差しはさむ。
- | | | | | | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| <input type="text"/> |
| | | える | く | | | いる | |